

(I-4)

高齢化社会に対応したリゾート・レクリエーション 施設の開発に関する分析

A Study on Methodology for Development Resort and Recreation Facilities
for an Aging Society

立命館大学 正員 春名 攻^{*}
立命館大学大学院 学生員 越名 健^{**}
立命館大学大学院 学生員 ○大島 良彦^{***}

By Mamoru HARUNA, Takeshi KOSHINA, Yoshihiko OHSHIMA

これからの都市（地域）整備計画を考える際には、これまでのようなハードウェア中心の考え方だけでなく、地域をマネジメントしていくためのソフトウェアを併置した計画案を検討することが必要であり、さらに社会的ニーズを捉えた計画案の検討を行うことが重要である。さらに、高齢化社会を迎えた現在においては、今までのように働き盛りの層を中心とした都市づくりや施設づくりの考え方だけでなく、弱者となった老人でも健全にかつ安心して活動できるような施設の開発を同時に考慮していくことも必要である。

本研究では、上述のような視点から、高齢者の余暇時間の使い方や要望という点に焦点をあて、高齢化社会に対応した望ましい都市づくりや施設づくりの方法論に関する分析を行うこととした。すなわち、高齢者を対象としたリゾート・レクリエーション施設整備に関するアンケート調査を行い、システム論的にそのニーズを捉え、高齢者の方のリゾート・レクリエーション施設を整備していく上での重要なポイントや問題点を整理していくこととした。さらに、調査分析結果を若年層のニーズと比較を行うことにより、今後の都市づくり・施設づくりのための計画情報を求めるために、多方面からの分析及び検討を行った。

【キーワード】高齢化社会、リゾート・レクリエーション

1. はじめに

わが国はいま、急速に高齢化社会へと向かいつつある。1970年に65歳以上の老年人口比率が7.1%に達し、西欧諸国に続いて高齢化社会の仲間入りをした。

老年人口比率の上昇は今後も着実に進んで、21世紀の初頭には高齢化率は20%を越え、超高齢化社会に達することが推定されている。

現段階において健全に生活する多くの人々にも、将来高齢者という弱者の立場に立つ可能性は相当高い確率で存在する。その不安は、国民一人一人の中に重く潜在している。その不安を解決できる都市システムの構築が、行政の立場から提示され、市民がそれを理解し安心して生活できるまちづくりに、高齢化社会対策の目標が置かれるべきである。この目標達成のためには、都市づくり、施設づくりのために通常行われているような、一般的な現状の分

^{*} 正員 工博 理工学部土木工学科教授
(075-465-1111 EX3701)
^{**} 学生員 理工学研究科土木工学専攻
(075-465-1111 EX3701)
^{***} 学生員 理工学研究科土木工学専攻
(075-465-1111 EX3701)

析、把握だけでは十分ではない。新たな問題発生の予測とあるべき高齢化社会像の創出について、積極的な取り組みを進めることが必要であると考え。

わが国にとって未経験な超高齢化社会の状況において、従来の働き盛りの層を中心とした都市づくりではなく、老人ばかりでなく、児童・若者をも含めた全市民、全家族がいかに有意義な人生を送るかという点を検討することが必要である。すなわち、このような課題を達成するような方策を踏まえた都市のビジョンなくしては、この問題は解決できないものである。

そこで、本研究グループでは、高齢化社会対策は、老人福祉の理念を根幹としつつ、新たな経済社会的状況に応じる市民生活の確立に向けた、横断的取り組みや、創造的取り組みを全般にわたって求めるものと考え研究に着手した。

2. 本研究のねらい

本研究グループでは、これまで都市における効果的なリゾート・レクリエーション空間の開発計画の方法論的研究を、よりよい方向へ展開するために、次のような検討を積み重ねてきた。すなわち、人々の余暇行動の分析を通して空間施設整備に関するニーズを明らかにするとともに、都市におけるリゾート、(アーバンリゾート)のコンセプトの把握を目指した実証的分析を行ってきた。そして、研究を進めるにあたって、アーバンリゾートに対しての概念的な定義を以下のように定めた。

日常生活において、人々の余暇時間を充実させるための欲求を満たしてくれるリゾートのうえでの、職場や家庭をベースキャンプとした日帰りの範囲内のリゾート

そしてこの定義に基づき、アーバンリゾート計画の作成にとって必要と考えられるコンセプトを構造的に把握するための研究を行った。そして対象者を関西圏に在住する20歳代の男女の就業者とした調査・分析を行い、若年層のリゾート・レクリエーション施設整備に関してのニーズを把握することができた。

このような研究に加えて、本研究では、急速な長寿化に対応して人々のライフスタイルが大きく変化する中で、子供、女性、老人を含めた社会構成員の全ての人が、長い人生を健やかに生きがいを持ち、充実して過ごしていけるような都市づくりや施設づくりを進めていくことが、今後のわれわれの研究を望ましい方向へ展開していく上で大きな課題であると考えた。その上で、これからの長寿社会に対する人々のニーズを把握するためにマーケティングリサーチの手法を考慮したアンケート調査を行っていくこととした。

3. 活力ある長寿社会の整備構想の背景

(1) 長寿社会の現状

a) 関心の高い健康づくり

健康であることは、豊かで活力に満ちた生活を安心して送るための最も大切な要件の1つである。老後のために必要な備えとして、8割ほどの人が健康管理を挙げており最も重視されている。また、高齢期の生活では、過半数の人が寝たきり状態になることを不安の第1として挙げている。

健康づくり対策の充実としては、個人の努力である程度のことのできることを挙げる反面、心身の状態の管理、運動の仕方など、専門的な設備やマンパワーが必要となる部分での支援が不足していることが伺われ、新たな健康づくりシステムの整備充実が求められていることがわかった。

b) 高齢期の余暇の現状

本来、余暇生活をいかに過ごすかは個人の選択に任せるべきである。しかし、わが国の高齢者は、欧米諸国の高齢者と比較すると活動範囲が狭く消極的な傾向が伺える。このことは、日本の高齢化が急速に進んだため、日本人の民族性からくる価値観の問題を含めて、社会システムの変化が高齢化の進行に追いついていない状況の影響とも考えられる。

高齢者の人々にも潜在的な希望や意欲は感じられ、高齢期の余暇の充実のためには、「高齢者向けの余暇施設の充実」や、「高齢者になっても積極的に働きに出かける」などの社会システム面での条件が整えば、充実した余暇活動を通して豊かな長寿社会を享受できる人も多くなると考えられる。

c) 生きがいの形成の重要性

高齢者の社会に対する貢献意識や学習意識は決して低くない。その意欲を具体的な活動に結び付けていくためには、高齢者の社会活動を促進する基礎的条件の整備を行っていくことが必要であると考え。つまり、これらの活動に参加する仲間や、呼びかける団体が存在していたり、それらが社会的にも評価されていくことが大切である。そして、これらの活動を通して行われる学習の内容が社会参加や健康づくりに還元されたり、生きがい形成に寄与していくというような形での支援システム整備が必要であると考え。

d) 高齢者の社会的役割の重要性

高齢者の長年培った技能・技術や知識を、生産・家庭・地域活動などの様々な場面で社会に還元していくことは有用なことである。加えて、このような活動を通して高齢者の存在意義の社会参加、さらには、経済的な余裕の形成等々が促進されると考えられる。このような観点からの高齢化と高齢者の社会的役割を描いて図1にした。

(2) 活力ある長寿社会の形成

人口高齢化の進行は、健康で自由時間を豊富に持ち経済的にも恵まれた高齢者の増加をもたらすようになった結果として、このような高齢者が社会の構成員のかなりの部分を占めるようになるものと考えられる。今後の長寿社会では、高齢者層を、地域社会や経済社会を支える新たなマンパワーとして捉え、社会の活性化につなげるように活用していく発想が必要不可欠であると考え。ここで、このような高齢者像の変化を図2に示し、高齢者の行動別分類として考えられるものを表1に示した。

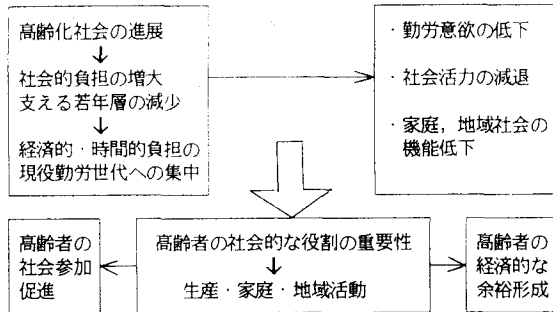


図1 高齢化と高齢者の社会的役割

従来の高齢者像

病気がち
=低い活動力
低収入
↓
家族や社会に扶養
される存在

新たな高齢者像

健康
ゆとりある生活=高い活動力
豊富な自由時間
↓
長寿社会を支える
新たなマンパワー

図2 高齢者像の変化

(3) 21世紀での時代の流れ

a) 価値観・ライフスタイルの変化

高齢化率がピークに達すると予測される2025年頃の高齢者は、戦後生まれの世代が中心であることも今後の長寿社会を考える上で見逃せないこと

である。このことは、高齢者の仕事も、従来のなどらかな引退生活とは異なり、リタイア後の生活ひいては地域社会へ適応した生活姿勢という点からみて、高齢者の活動を生きがい形成の関係を考えた仕組みづくりの必要性を増大させると考えられる。また、高齢者の新たな社会的役割が重要となると同時に、若年層ができるだけ早い時期から地域社会との接点を持ち、若年期から継続した活動や若年層が地域社会の高齢者を始めとする他の層の人々と交流する場の形成も必要になってくると考える。このような価値観・ライフスタイルの変化の捉え方を図3に示した。

b) 物の充足から精神的ゆとりの追求への変化

所得水準の向上や自由時間の増大などを背景に、人々の生活意識も多様化し、生活の力点は食・住か

表1 高齢者の行動別分類

ダンシング・シルバー	(10%)
所得は中～上。健康状態も良好。自由時間をクリエイティブに使いこなす。余暇の充実のために、積極的にお金や時間をかける。	
ザ・キャリア・オールド	(20%)
自分のキャリアライフの充実・達成とその新たな展開に意欲を燃やす。仕事やその成果の活用により自己実現を図る。	
ザ・カモン・オールド	(50%)
つつましく、常識から逸脱しない行動的なライフスタイルは持ち合わせていない。	
ザ・グレイ・オールド	(20%)
世の中の片隅でグレイな人生を送る。年齢的には比較的高い。余暇に回すお金も意欲もない。	

・ライフスタイルの多様化	様々な活動の需要増大
・志向の高度化	活動内容の高度化・多様化
・核家族化	高齢者の新たな社会的役割
・サラリーマンの増加	若年期からの継続性
・個人主義化	世代間の交流の重要性

図3 価値観・ライフスタイルの変化

らレジャー・余暇などの精神的なゆとりの重視へと移り、同時に量から質へというようにニーズも変化しつつある。

c) クオリティーオブライフの追求

今後の社会においては、①人々の生活の中にゆとりや潤いを求めるニーズ、②保養やスポーツを通じて健康な社会生活を維持すること、③人々が地域社会との接点を持つこと、④生涯を通して学習を続けることのできる、等々が社会的ニーズとなつてこよう。また、これらは次のような整備と結びつけられよう。すなわち、

- ①人々の生きがい創造に貢献すること、人間的成長の志向に応えられる場の整備
- ②うるおいのある人生を追求すること、人々の高度化する志向に応えられる健康づくりの場、ゆとりある余暇生活を追求する場の質的整備
- ③自己実現の機会提供に貢献すること、創造的活動の場とその支援システムの整備
- ④生涯学習の機会提供に貢献すること、学習活動の場とその支援システムの整備

以上のことを行うことにより、「より人間らしい生活の質」を提供していくことが可能な活動拠点の整備が重要である。

これらのことを踏まえ、活力ある長寿社会の整備構想の背景を取りまとめて図4に示した。

4. 高齢者のためのリゾート・レクリエーション施設把握のための分析に関する考察

以上のような事前の概念的な考察を踏まえて本研究の実証的な検討を進めたが、以下においてその概要を取りまとめて示すこととする。

本研究においては、新たな第2の人生ともいえる老後の期間を生きがいを持って、健康に過ごせるような社会基盤の整備が必要であると考えた。そのた

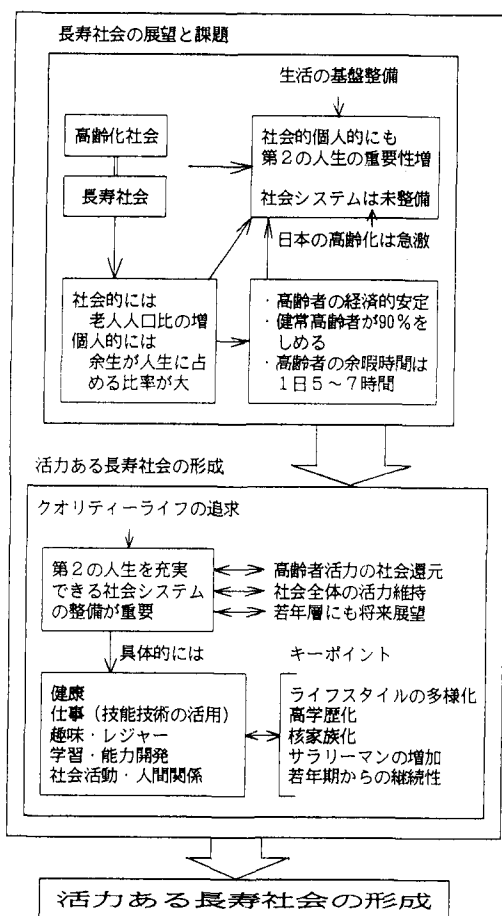


図4 長寿社会整備構想の背景

めには、余暇時間におけるレクリエーション施設整備に対する高齢者のニーズを十分把握していくことが、高齢化社会での施設整備計画策定において必要かつ重要な前提条件であると考えた。そして高齢者の生活活動の場として、比較的手軽に趣味・娯楽や学習活動を行え、さらに心身のリフレッシュが行える快適な余暇空間の創造が、高齢化社会に対応したリゾート・レクリエーション施設の整備計画における重要な意義であり、重要な役割であると考えた。そこで、本格的な調査を行う前の予備段階として、高齢者の方の余暇活動に対する意識を把握するための事前調査を行った。

(1) アンケート調査項目

高齢者の方の余暇時間におけるレクリエーション行動に影響を及ぼす調査項目として、個人の属性、生活水準及び満足度、経済面での意識、健康状態、

友人の有無、労働意

欲などを把握していくこととした。さらに今後のレクリエーション施設の利用形態を、高齢者のニーズとして把握していくこととした。アンケート調査項目は表2に示すようなものを取り上げた。また、アイテム間の構造仮説のフローを、図5のように設定した。

(2) アンケート実施結果

事前調査としては、調査対象者を関西圏に在住の65歳以上の高齢者に限定し、マーケティングリサーチの手法を参考としてアンケート調査を行った。

(3) アンケートの一次分析結果

a) 日常生活における意識

生活水準においては中流意識が強く、暮らし向きについては満足と回答した人が全体の76.8%であった。現在不安を感じている項目としては、「健康に関して」と回答した人が全体の69.8%であり、医療・健康に関しての関心が非常に高い。また、今一番知りたい事でも、「医療や健康の問題」と回答した人が最も多く、一般に言われている健康が高齢者における最重要の問題であることと、一致した結果を示している。

日常生活における他人との係わりに関しては、「一人でのんびりしたい」と回答した方が34.9%、「同じ年齢層の人達と一緒に活動したい」と回答した方が51.2%、「若者達と一緒に活動したい」と回答した方が9.3%であった。家族の中の人間関係だけでなく広く社会関係の中でも人的につながりのある人ほど、老後を楽しく暮らせると考えることができる。このような結果から、世代間の交流の場としてのリゾート・レクリエーション施設の提供が重要であり、社会的なネットワークの豊かさが老後の生活の楽しさに深く関係していくものと考ええる。

表2 高齢者の余暇活動に関するアンケート調査項目

<個人の属性>	<知りたい情報>	<高齢化社会対策>	<現在の余暇活動>
- 性別 - 年齢 - 家族構成(経済面) - 収入源 - 自由に使える金額(生活意識) - 生活水準 - 生活の満足度 - 友人 - 再就職 - 健康状態 - 高級老人ホーム	- 社会活動(ボランティア) - 就労の斡旋 - 余暇の過ごし方 - 医療、健康 - 年金 - 福祉制度	- 余暇活動に対する施策の充実 - 世代間交流の促進 - 家族や地域の人々とのふれ合い - 高齢者のための職場の確保 - 困ったときの窓口の充実 - 年金制度の充実 - 老人ホームなどの福祉施設の充実 - 生涯学習の機会提供 - 道路や建物の安全面の充実	- テレビ、ラジオで楽しむ - 家族との交流など24項目
			<今後の余暇活動> - 希望施設 - 利用頻度 - 施設の場所 - 交通手段(所要時間) - 利用金額 - 利用同伴者 - 利用目的

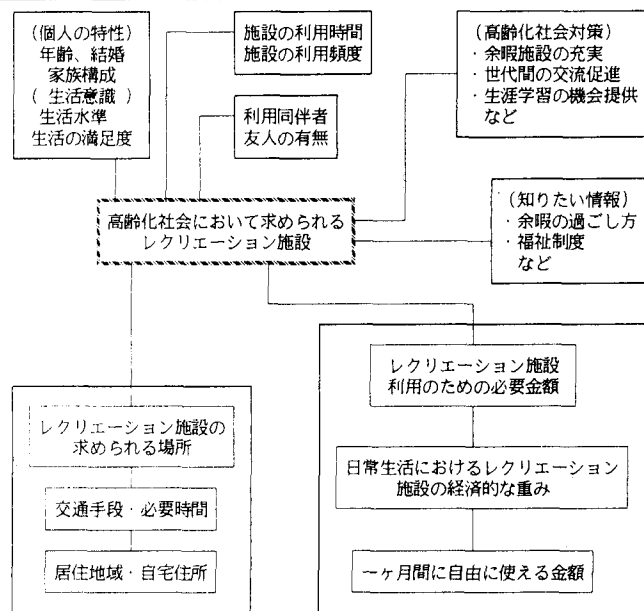


図5 アイテム間の構造仮説のフロー

一日を長いと考えている人は、予想に反して少なく全体のわずか14.0%に過ぎなかった。ほとんどの人が自分の趣味を持っていたり友人と過ごしたりして、一日を有意義に過ごしていると考えられた。その反面、高齢者の交通手段は主に徒歩であり、1つ1つの行動も非常に時間がかかることがこのような結果の要因として挙げられる。このことから施設整備の際、単独に施設整備を行うのではなく、多種類の機能を備えた複合施設の整備が必要であると考えた。

また、最近話題となっている高級老人ホームの入居希望に関しては、「夫婦もしくは一人で入居した

い」と考えている方は7.0%で、「どちらでもよい」と回答した方は23.3%であった。このことから、自分の老後は子供と同居したいという希望がある反面、現実の問題として自分の老後を安心した生活するには、多額の金額を支払っても公営の老人ホームとは異なった、サービスの行き届いた高級老人ホームの入居を希望する人もかなりいるということが推測され、今後は一層増加するものと考えられた。

b) 現在知りたいことの内容

先にも述べたが、「医療や健康の問題」を回答した人が最も多く、続いて「年金について」、「福祉制度や施策」、「余暇の過ごし方」の順になっていたが、年金などの経済基盤に関わる問題に対する関心も非常に高かった。

c) 高齢化社会対策としての内容

高齢者が望む高齢化社会に向けての重要施策は、「道路や建物の安全面の充実」(74.4%)、「年金制度の充実」(72.1%)を挙げている人が最も多い。この結果からも分かるように、高齢者が安心して生活できる都市づくりや施設づくり、さらには、年金などの経済基盤の強化等々が最も切実な問題であることを示している。また、現在までの高齢化社会対策としては、病弱者対策や医療に関する施策が中心であったが、これらに加えて、今後は、健全な高齢者が豊かな楽しい生活を送れるような施設整備が必要であると考ええる。

d) 今後の余暇活動

高齢者が回答した利用したい施設としては、「都市公園・自然公園」、「健康ランド・クアハウス」、「文化教室・習い事」が比較的多かった。一方、過去の調査で20歳代を対象としたアーバンリゾートに関するアンケート調査においても、「都市公園」と回答した人が最も多く、「公園」は年齢を問わず心身のリフレッシュの場所や、軽い運動をする場所として非常に重要な施設となっていると考えることができる。

また、施設の希望場所としては、自宅周辺地域と回答している人が60.5%で最も多く、交通手段では、「徒歩」と回答している人が53.5%で最も多かった。このことから、自宅近くで気軽に利用できる施設が望まれていると考えられる。利用目的としては「健康・体力向上」のためと回答した人が44.2%で最も

多く、ここでも高齢者は、「健康面」への関心が高いことが分かる。

以上の結果から老後を楽しく、そして寂しさを感じることなく幸せに暮らすためには、安定した収入があり、家族の中で適切な役割を得て、一方、家族以外で社会関係のネットワークを豊かに広げることである。積極的に前向きに生活する態度を持つことが不可欠の条件であり、若年層の人も高齢者に到る以前から趣味を持ち、趣味を生かせるような準備をしておくことが豊かな老後のためには必要であると考えられる。

5. おわりに

本研究においては、高齢化社会となる今後のわが国において、高齢者を含めた社会の構成員全ての人々が、健全に安心して生活を楽しんでいただけるようなリゾート・レクリエーション施設の整備に関するニーズを把握するために、今回は高齢者を対象とする前述のようなアンケート調査を行った。ここでは、本格調査の前の予備段階として、事前調査を行ったのであるが、余暇活動のための施設整備に関する高齢者の方の意識や要望をおおまかに捉えることができた。

今後は、この事前調査のアンケート質問項目、調査結果をさらに詳しく分析、検討し本格調査を行っていく予定である。また本格調査においては、調査対象地を都心部、地方中核都市、田園都市、の3つの地域とし、調査地域の違いによる高齢者の方の意識の違いについても把握し、地域に応じた整備計画を検討することとする。さらに、性別、年齢別によるニーズの違いについても明かにし、今後の高齢化社会において求められている都市づくりや、リゾート・レクリエーション施設に対するニーズを明らかにする。なお、本調査の調査・分析結果については紙面の都合上、研究討論会当日に発表することとする。

【参考文献】

- 1) 高齢化社会への総合計画、1990年 8月
- 2) 長寿社会と男女の役割・意識、1990年 6月